

熊本県立大学

# 国文研究

第五十三号  
平成二十年五月

## 目次

- 苦沙弥先生の使った否定辞分析 稲川 順一…… 1
- 延宝期より元禄期までの画引字書について 米谷 隆史…… 17
- 〔翻刻〕徒然種講筈要集 川平 敏文…… 31  
—享保の古典講釈マニュアル—
- \*
- <小特集>文献を基礎とした地域研究・地域教育のために
- 真宗寺院に伝来する親鸞の伝記資料 湯谷 祐三…… 65  
—下益城郡美里町恵照寺蔵『親鸞聖人御因縁』  
及び『御絵伝詳解』について—
- 和装本の修復と保存 本田 瑛子…… 70
- 熊本県立図書館木下文庫蔵『諸公卿画讃帖』について 堀内 実穂…… 77  
—近世前期の歌仙画帖—
- 〔翻刻〕永禄九年閏八月十八日肥後天草住妙楽寺秀舜興行  
何路百韻 青木美穂ほか…… 94
- \*
- 熊本方言談話データベースの構築 田川 恭識…… 110 (11)
- ポルトガル語からの外来語 馬場 良二…… 120 (1)

熊本県立大学日本語日本文学会

編 集 後 記

『国文研究』第五十三号をお届けします。表紙を見てお気づきの方もおいでかもしれませんが、「国文研究」の題字を改めました。かねてより雑誌タイトルの味気なさをなんとかしたいと考えておりましたが、適当な機会を得ぬまま過ぎておりました。今回、本学卒業生の佐藤玲望さんに揮毫していただき、新たな装いで表紙を飾ることができました。

さて、本学の日本語日本文学科も、刻々と変わりつつあります。一番の変化は、今年度より大学院文学研究科の日本文学専攻に、博士後期課程が設置されたことです。これで、学部から大学院まで、一貫した教育・研究体制が整備されたわけですが、それに伴い責任も重くなります。また、新たに大学院論集も刊行されることとなります。『国文研究』の内容が薄まらないようにするためには、教員・院生はもちろん、学生諸君の奮起が期待されます。

「国文研究」 第五十三号

印刷 平成二十年五月三十一日

発行 平成二十年五月三十一日

編集・発行

熊本県立大学日本語日本文学会

熊本市月出三丁目一番一〇〇号

印刷 株式会社サンカラ

☎〇九六―三八〇―八三三二